

活動報告書

報告者氏名:長谷川雅美

所属:太田市立尾島小学校

記録日:令和4年2月28日

キーワード:交流学級

【対象児の情報】

○学年 小学校5年生(12歳)

○障害名 ◎自閉スペクトラム症(2018年診断) 注意欠如多動障害(2018年診断)

◎WISC-IV(2018年3月)の結果をみると、FIQは平均値より高く、特にPRIでは高い数値であった。半面、PSIは平均値より少し低かった。

○障害と困難の内容

① 読むことについて

- 文章を声に出して読むことに苦手意識を持っている。本人によると、次の文章を勝手に考えて文にしてしまう癖があるとのことである。しかし、日々の観察から、文字を正確に読んで音に変えていくことにも、困難さがあると予想される。

② 書くことについて

- 書くことに苦手意識を持っている。書いた文字を見ると、文字の構成要素は捉えられていることから、書く活動に時間がかかることや書き慣れていないことが課題にあるようだ。

③ その他

- 算数に自信をもっている。自分の考えを前に出で、堂々と説明することができる。
- 話し方や言い回しが個性的で、「つまり」「たとえば」などを多用する。自分の活動が終わらなかつたり、スムーズに切り替えられなかつたりし痙攣をおこすことがある。
- テストを受けるときなど集中したいときには、耳栓をしている。

【使用した機器】

○Chromebook

【活動目的】

○当初のねらい

(1)学習スキルやコミュニケーションスキルをもつ

(2)読むこと、書くことへの苦手意識を軽減する

(3)活動の見通しをもち、自分でスケジュールを管理する

○実施期間 4月8日から2月9日

○実施者 長谷川雅美

○実施者と対象児の関係 交流学級担任

教科担当(国語、算数、家庭科、道徳、学級活動、総合意的な学習の時間)

○交流学級で過ごす時間(黄色は、長谷川が担当する時間)

	1	2	2 0 分	3	4	給食 掃除	昼 休 み	5	6	
月曜日	体	社			算	国		給食		音
火曜日	国	国		英	理	給食		算	学	帰りの会
水曜日	算	図		家図	家	給食		総	総	帰りの会
木曜日	国	社	休	理	理	給食		算	体	帰りの会
金曜日	社	算	み	国	英	給食		体音	道	帰りの会

※ 火曜日の国語 1 時間を、長谷川が担当している。

1 学期は、本児と教材室で、4 年生の教科書をプレ教材として学習した。

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

(1)学習スキルやコミュニケーションスキルをもつ

- ・ 国語は特別支援学級で学習を進めているが、授業では漢字スキルをやるのみであった。テストは自力で解決している状態である。
- ・ 社会や理科には興味もてないようで、ほとんど机にふしている状態である。

	半分以上、起きていた授業(担当による)	1学期中の授業数
社 会	3時間	45時間
理 科	18時間	43時間

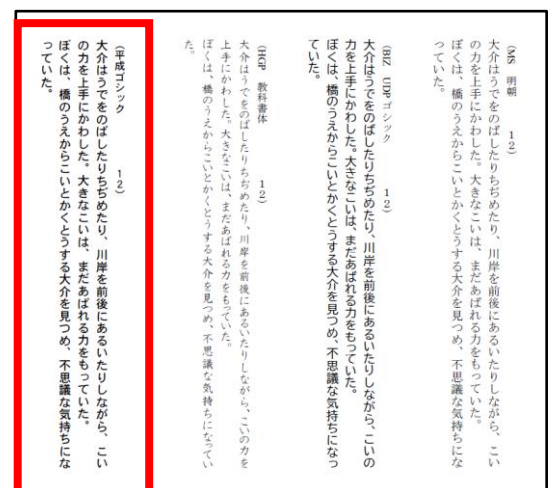
- ・ 算数のテストや社会科のテストでは、20分くらい余計にかかる。これは、初めての問題パターンであったりすると余計助長されるようだ。社会科のテストで苦戦した問題は、連想ゲームのように、いくつかの情報から、国名を答えるものであった。
- ・ ローマ字入力はまだどどしいが、コンピューターを使うことは好きである。
- ・ 休み時間は、晴れていると同学年の友達とドッジボールとして過ごしている。
- ・ 交流学級でテストを受けるときなど集中したいときには、耳栓をしている。
- ・ 知識が豊富で、給食の時間などには、自分の知っていることを、友達に聞いてもらいたいようで、黙食は難しい。
- ・ 言い方が個性的である。マスクをしていないことや黙食をしていないことについて友達から注意を受けると、友達からは「屁理屈」と捉えられることが多く、そこからトラブルになる。

(2)読むこと、書くことへの苦手意識を軽減する

① 読むこと

- ・ 文章を読むことに苦手意識を持っている。本人によると、文章を読んでいると、次の文章を勝手に考えて文にしてしまう癖があることが原因とのことであるが、文字を正確に読んで音に変えていくことに困難さがあるとも考えられる。
- ・ 同じ文章においてフォントを変えて提示したところ、メイリオやゴシック体が見やすいと答えた。

(フォントを変えて、文章を表示)



② 書くこと

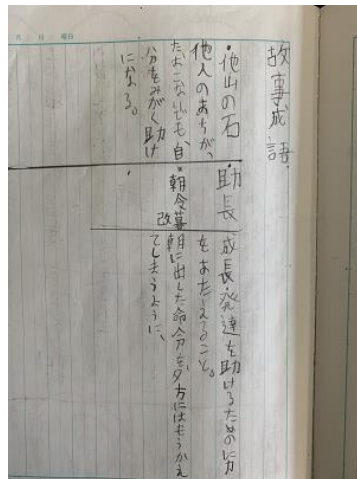
- ・ 書くことに苦手意識を持っている。書いた文字を見ると、文字の構成要素は捉えられていることから、書く活動に時間がかかることや書きなれていないことが課題にある。
- ・ 授業中にノートをとることも苦手としている。そのため、ほとんどの教科でとらない。しかし、算数の授業では、自分の考えを式に表したり、説明文を書いたりする活動では書くことができる。
- ・ 特別支援学級の国語の授業では、漢字スキルで学習を進めている。1時間に4つ取り上げて学習している。十分な時間が確保されているため、本児の書く文字を見ると、字形が整っている。

- 1学期に書いた算数のノートを見ると、行をあけたり、文字の間をあけたりせずに書いていた。

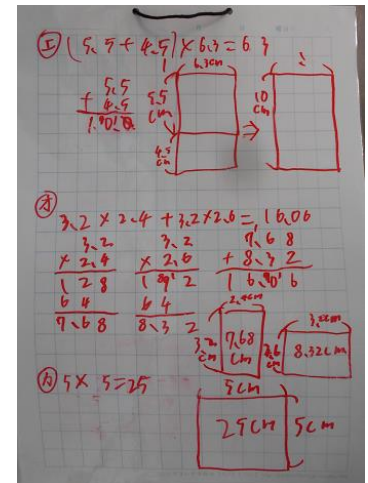
(あかねこ漢字スキル)



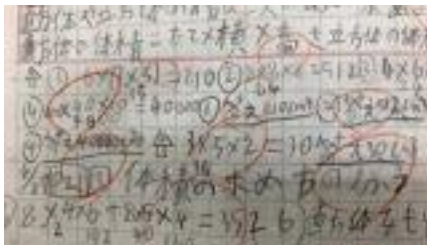
(6月 国語のノート)



(5月 算数のホワイトボード)



(算数のノート)



(3)活動の見通しをもち、自分でスケジュールを管理する

- 自分の活動が終わらなかつたり、スムーズに切り替えられなかつたりすることがある。次の授業に遅れると、癪癪を起して5分間ほど泣く。しかし、あらかじめ注意を促すとスムーズに動けることも多い。特に、1学期に、間に合わなかつた授業は、赤の文字の授業である。

	1	2	2 0 分 休 み	3	4	給食 掃除	昼 休 み	5	6	
月曜日	体	社		算	国	給食		音	なし	帰りの会
火曜日	国	国		英	理	給食		算	学	帰りの会
水曜日	算	図		家図	家	給食		総	総	帰りの会
木曜日	国	社		理	理	給食		算	体	帰りの会
金曜日	社	算	国	英	給食	体音	道	帰りの会		

- 特別支援学級の6年生との言い合いが多く見られ、朝から不機嫌なことが多い。担任によると、言い合いの原因は、一日の見通しが立たないことへのいら立ちであるとのことである。
- 休み時間は、晴れていると同学年の友達とドッジボールとして過ごしているが、友達が「終わりだよ」と伝えても、なかなか終わりにならず、最後に帰ってくる。
- 算数の時間に集中しすぎて、体育の授業に間に合わなかつたこともある。
- 放送委員会に所属しているが、ひな形があれば、堂々と全校放送をすることができる。しかし、時間通りに方法をするため、イレギュラーに対応できない。

月	授業の開始に間に合わなかつた回数
4月	9回
5月	6回
6月	8回
7月	6回

○活動の具体的な内容

(1)学習スキルやコミュニケーションスキルをもつ

落ち着いて学習を進められる環境づくり

本人の特性を意識した協同的な学習の設定

教科の特性に合わせた学習方略

学級風土の醸成

(2)読むこと、書くことへの苦手意識を軽減する

家庭学習での黙読はOK

Chromebook の活用

ゴシック・メイリオなどでプリント作成

自分にあった書く方法の選択

(3)活動の見通しをもち、自分のスケジュールを管理する

時刻を可視化

Chromebook の活用

スケジュールを確認

リハーサル

○対象児の変化

(1)学習スキルやコミュニケーションスキルをもつ

エピソード1 国語の学習方略を使って

国語の授業は原則的に特別支援学級で行っているが、漢字スキルを使っただけの学習が中心であることがわかった。そこで、7月から、火曜日の1時間目の書写の時間を使い、本児と説明文と学習方略を学習した。

本教材「言葉と事実」では、要約し、要旨をまとめることがねらいであることから、説明文の学習方略として、接続詞に着目する方法を取り上げた。プレ教材である4年生の時に扱った「花を見つける手がかり」で接続詞の確認をしてから学習を進めた。

もちろん、テストは当たり前のように満点を取るが、授業のねらいである要約や要旨をまとめる経験がなかったため、方略を与えることはスムーズに学習を進めるのに役立った。

説明文で筆者の主張を読み解く手がかりとなるのが**接続詞**です。接続詞（接続語）とは、前後の文や語句をつなぐ言葉のこと。小学校では**中学年で「つなぎ言葉」「つなぐ言葉」として習う**ことが多いようです。

接続詞は、筋道だった論理的な文章には欠かせないもの。接続詞に注目することで、前の文と後ろの文との関係性をつかんだり、**筆者が強調したい重要な部分**がわかるようになります。

接続詞には、順接・逆接・並列・対比、添加（累加）・説明、選択・話題転換などのパターンがあります。

1 順接（前の内容の結果が後に続くもの）

「だから」「すると」「それで」「そこで」などの**接続詞**に当たり、前が原因で後ろが結果という関係性となります。英語でいう「so」に当たるものです。

2 逆接（前と反対の内容が後に続くもの）

「しかし」「だが」「けれども」「でも」といった**接続詞**で、前と反対の内容が続きます。逆接の場合は、前より後の内容の方が筆者の言いたいことに近いので、注目するようにしていきます。

3 添加（前の内容に付け加えるもの）

「しかも」「さらに」「そのうえ」など、前の内容に付け加える**接続詞**となります。添加して自分の考えを補強していると考えると、**筆者が強調したい内容**だとわかります。

（接続詞に注目して説明文を読もう）

エピソード2 算数の授業で協同的な学び

算数に自信をもっている本児であるため、発展的な問題や数学的な活動では、班活動を取り入れた。自分の意見を友達に説明したり、教えたりする姿が見られた。また、彼の個性的な言い回しである「つまり」が、算数の説明ではよりわかりやすく、友達から、「へえ」「そうか」と共感が得られていた。

2学期から単元の終わりには必ず班活動を取り入れることとした。2月に行った「多角形」の単元では、Scratch を使って正五角形を描く授業を行った。そこでは、『「ペンを下げる」をこのブロックの後ろに入れるといいです』とミニ先生となって授業を進めていた。学級の友達が、休み時間に、「音声を合成することを教えてほしい」と聞く姿も見られた。



エピソード3 お楽しみ会

1学期の最後に行われた「お楽しみ会」では、ゲームのルールの説明係として登場した。事前に、ルールについて確認させ、リハーサルとしてから、参加させた。

当日は、算数の授業と同じように、端的に、わかりやすく説明していた。一緒の係の友達も、算数でも同じ班であるため、「〇〇くんの説明の方が、みんながわかるから、おまかせ」と言って、横で見守っていた。

また、体育の時間では、友達とマスクをすることなどでトラブルが見られた。そこで、本児と、クラスの児童に、ルールを明示したところ、お互いの行動について理解が進み、言い合いがなくなった。



体育の時間のマスクルール

- ・基本は、マスクはつけたままです。
- ・苦しくなったときは、みんなから離れた場所なら、とっていいよ。
- ・せき、くしゃみが出そうときは、マスクのままですか、ハンカチなどで口をおさえてね。

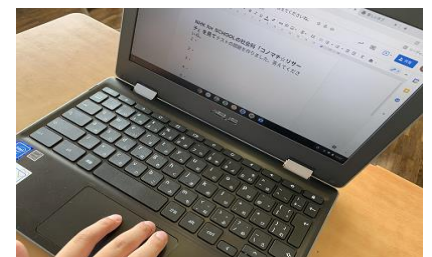
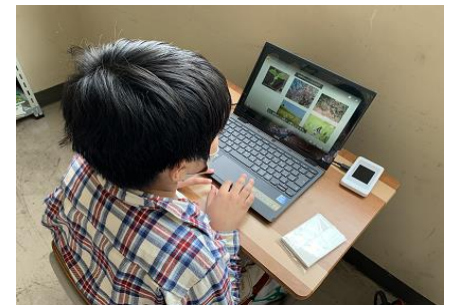
お互いに楽しく体育を行うために、マスクルールなど、気づいたことは、まず、先生に相談してね。

エピソード4 自習スペースを一緒に作る

交流学級がある4階に教材室があり、そこを本児と一緒に夏休み前に居心地の良さを目指して整理した。

2学期になって最初の社会科の時間に、本人からの申し出により、30分間利用し、NHK for School「未来広告 JAPAN」を視聴した。映像を見ながら、わかったことをまとめることができた。

そして、社会科でNHK for Schoolやeboardなどを視聴することは、自分の学び方にあった動画やコンテンツを選ぶことに繋がった。理科では、次に学習する単元のために、NHK for Schoolの視聴する姿も見られたり、体育では苦手な跳び箱をうまくなりたいたい動画を視聴したりしていた。

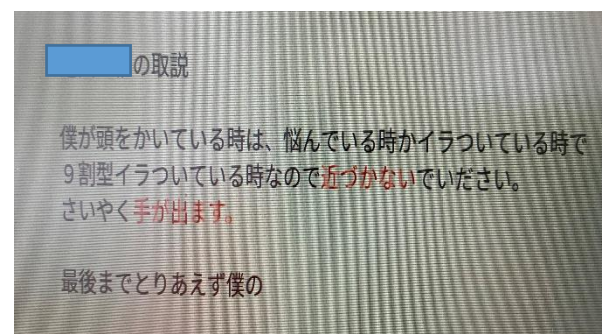


エピソード5 ぼくのトリセツをつくる

10月のクラブ活動でのクラブをもとに学級活動を行った。「自分のトリセツを作ればいいじゃね。でさ、それをお互いに伝える方が、このクラス、うまいくよ。」との子供たちの発言があり、みんなで作り、伝え合った。

2月にトリセツを見ると、文章が付け加えられていた。「最後までとりあえず僕の(5行改行)話を聞いてください」とあった。

学級活動の授業で、自分のトリセツを作り伝え合うことを通して、今まで何となくわかり合っていたという感覚がより確かなものになった。授業の振り返りには、「相手を思っていたけど、ちょっとちがった」「まずは、どうしたのって聞いてみよう」という感想も見られ、学級全体の成長を感じた。



(2)読むこと、書くことへの苦手意識を軽減する

エピソード1 黙読と自主学習

音読の宿題を、黙読でよいこととした。また、音読でのポイントを示したり、どこを読むのか示したりして、学習カードを工夫した。あわせて、自主学習については、ノートに行うことに限らず、NHK for School や自分の学習スタイルにあった動画の視聴をもとめることとした。もちろん、他の児童に対しても認めることとした。

日曜日	自主学習 内容・時間など	課題	読むところ	読む 工夫?
1 水	やっばい	漢字	プリント 詩	暗唱
2 木	やっばい	漢字	プリント 詩	暗唱
3 金	やっばい	漢字	プリント 詩	暗唱
4 土	やっばい	漢字	プリント 詩	暗唱
5 日	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	あきずに
6 月	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	がんばって
7 火	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	よんでみて
8 水	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	ずらずら
9 木	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	あきずに
10 金	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	よんでみて
11 土	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	どの作戦?
12 日	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	すきな作戦
13 月	やっばい	漢字	プリント 大迫いせい	すきな作戦

エピソード2 教師が作るプリントはUD フォントに

実践当初は、ゴシック体やメイリオで作成をお願いしていたが、学年に配布するプリントは、UD フォントに統一した。これは、どの児童からも好評である。

(3)活動の見通しをもち、自分でスケジュールを管理する

エピソード1 Classroom 機能で連絡

毎朝、健康観察を Classroom で行っていることもあり、一日の授業の確認もストリームに投稿することとした。そうしたところ、授業変更や持ち物など、見て確認できるため、本児が言うには、「これは、便利だ。でも、Classroom を見るのを忘れちゃうのよね。」とのことであった。

そこで、10月から、体温などの健康観察を Classroom で行うことを提案した。



エピソード2 時刻の可視化

1 学期は、休み時間にドッジボールをするとなかなか終わりにできないことが見られたため、タイマーで残り時間が見られるようにした。一緒に遊んでいる友達にも好評であった。しかし、10 月頃になると、予鈴で友達が声をかけると、さっと終わりにできるようになったため、使用しなくなった。



【報告者の気づきとエビデンス】

(1)学習スキルやコミュニケーションスキルをもつ

①自分なりの学習スキルを持ったことで学習に意欲がもてたのではないか

授業担当に机に伏している時間が授業の半分以上あった時間を記録してもらったところ、1 学期は、非常に多かった。もちろん、教材室での学習になってはいるが、学習していることには変わりがない。

	1学期	2学期
社 会	42時間	0時間

(机に伏していた時間数)

1 学期と 2 学期の社会科における単元テストの結果を比べると、知識・技能での伸びが見られた。思考力・判断力・表現力では、魚嫌いで学ぶ意欲をそいでいた単元を除くと、学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。

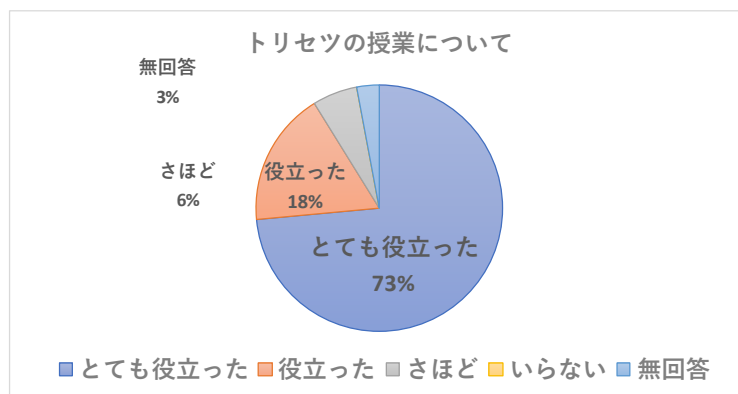
学期	知識・技能 到達率	思考・判断・表現 到達率
1 学期	70%	88%
2 学期	88%	66%

2 学期	思考力・判断力・表現力	50 点満点
1・くらしをささえ/米づくり		40 点
2・水産業のさかんな地域		25 点
3・これからの食糧生産		5 点
4・くらしをささえる工業生産		50 点

③ 協同的な学びの設定や学級活動の取り組みを通して、相互理解の一助になったのではないかと学級における人間関係についてのアンケートを行った。その結果は以下の通りである。

4 授業について教えてください。(①国語 ②算数 ③道徳 ④学級活動 ⑤その他)

④ 学級活動で行った「トリセツを作り、伝え合おう」にあなたにとって、どうだったかな？

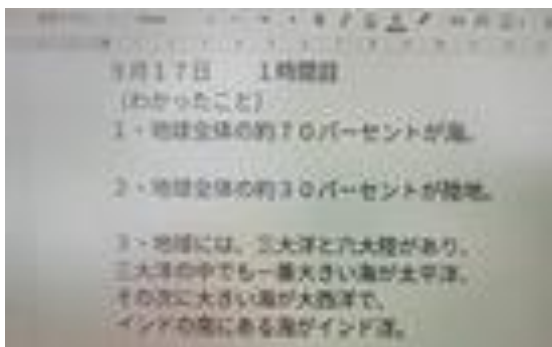


④ 授業に参加し始めた本児をみて、教師が刺激を受けたのではないかと

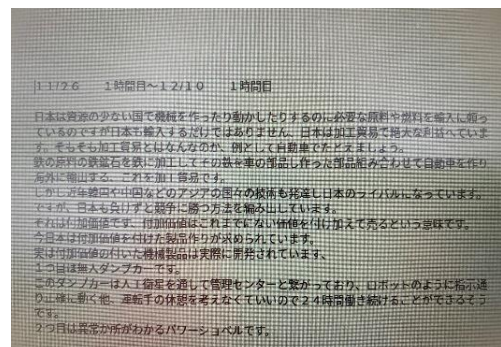
単元やテストの形式によっては、出題の意図を理解することに時間がかかることもあったが、2 学期になると、教科担任が、時間を 5 分ほど延長したり、最後まで解き終わるまで待ったりすることも見られた。本児の日々の努力の姿が、教科担任の支援方法を変えたと感じている。

(2)読むこと、書くことへの苦手意識を軽減する

① 書く方法を選択できることで、授業に参加しようという意欲が持ちやすくなったのではないかと社会科での学習では、教材室で ChromeBook を活用しながら、わかったことをまとめる活動を行っている。9 月 17 日と 11 月 26 日のものを比べると、文字量も増えたことがわかる。



(9月17日)



(11月26日)

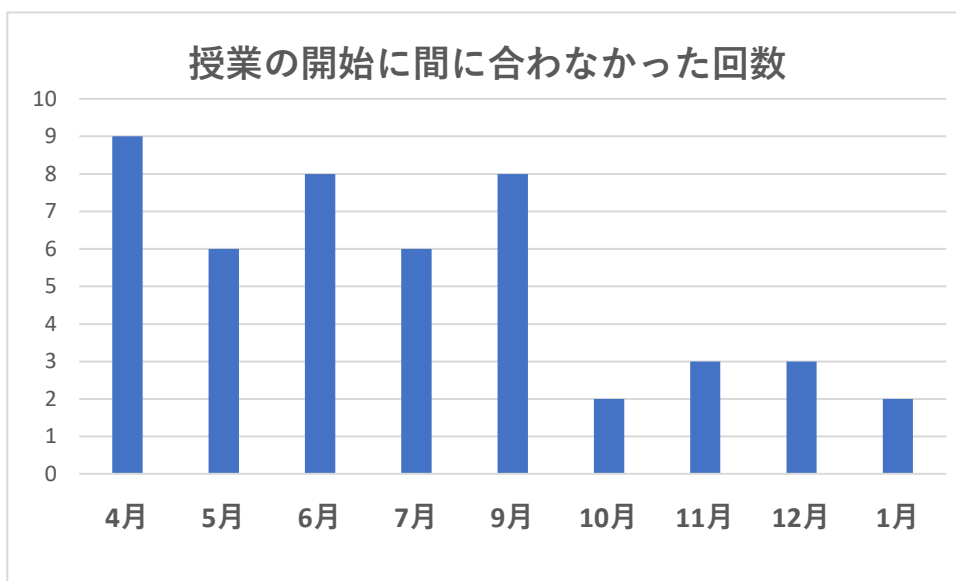
(3)活動の見通しをもち、自分のスケジュールを管理する

① Classroom を使うことで、いつでも確認できるという安心感が得られたのではないかと、
ストリームで授業変更や持ち物などを投稿したところ、本児もそれを見て確認していた。本児の発言
にあるように、大変便利であるし、時には見ることを忘れてしまうこともあったようだが、ストリームを
見れば確認できる安心感はえられたようだ。

また、毎日 Classroom で健康観察を行うことを提案して以来、習慣として定着している。合わせて、
朝学習も Chromebook で行っているため、ストリームの確認もスムーズに行えている。

② タイマーを使うことで残りの時間が視覚化され、見通しをもって休み時間を過ごすことができた
のではないかと

下のグラフは、月ごとの回数である。4 月から 9 月の間に合わなかった理由の主なものが、休み時
間の活動が終わらなかったことであった。10 月からは、算数の活動が終わらないことが理由となった。



【これから】

通常学級において、特別支援教育の観点や ICT を活用していくことは、どの児童にも有用なこと
であることを再認識した1年であった。本児との毎日が、他の児童の「わかった」「できた」に繋がり、時
に人間関係づくりのヒントが得られ、児童のみならず、教師の支援の仕方にまで影響を与えた。

来年度 6 年生となる本児が、自分なりの学習スキルを持ち、中学校へスムーズに移行できるように
支援を継続していきたい。